

巻 頭 言

本研究は、本協会の職員が日常の業務を遂行する中で問題点を見つけ、分析し、その対応策を検討するという実践的な研究をまとめるところからスタートして5年目を迎えました。

研究報告書は平成24年度に第1号を創刊して以来、今年度の7件の研究報告を入れて、共同研究者を含め延べ129名の職員から77件の研究報告が寄せられました。

研究をされた職員の皆様には、時間的にも厳しい状況の中で、日々の業務を振り返り、熱心に研究され、まとめるという作業に取り組み、その苦闘並びに努力に敬意を表します。

昨年度から、評価の高い優秀な研究の成果を讃えるとして、「最優秀賞」、「優秀賞」を設けました。また、今年度は、優秀賞には届かなかったものの、研究の努力が窺い知れるとして「奨励賞」を設けることにしました。

各施設の改善等を行う手段としては、(1)協会モニターの提言によるもの、(2)一般利用者のアンケートによるもの、(3)職員の思いつきやアイデア提言によるものなどがありますが、担当職員が課題を掘り下げて行う裏付けのある実践研究に叶うものはないだろうと考えています。

職員の皆様には、今後も引き続き、研究事業に取り組んでいただき、その研究成果が、来館されるお客様に対する「感動や、癒し」につながり、さらに、研究をされた職員が「心の豊かさ」を感じ、やって良かったと「しあわせな気分」となることを願っております。

最後になりますが、昨年12月、日本で初の新元素命名権を獲得した原子番号113番の名前が「nihonium (ニホニウム)」、元素記号「Nh」とそれぞれ決まり、このことは、日本の科学界における長年の悲願であったという喜ばしいニュースが飛び込んできました。この素晴らしい出来事に敬意を表したいと思います。

平成29年3月吉日
公益財団法人宮崎文化振興協会
理事長 井上雄二

目次

1. 研究論文

経営部門

《大淀川学習館》

- 全職員の専門性を発揮し、利用者の満足度を上げる 1
観察ステーションの展示運営の在り方について

自然科学部門

《宮崎科学技術館》

- SL スライドフィルムの更なる有効活用と資料保存・管理 7

- 科学技術に関する生涯学習の拠点としての 14
事業展開のあり方についての研究

《大淀川学習館》

- 小学校で活用できるチョウを観察する花壇作り 20

- アカメ展示の安定化 25

催事等実施報告部門

《大淀川学習館》

- はじめての生き物に触れる体験プログラムの作成と実施について 30

- 施設のファン獲得を目的とした Facebook による情報発信の実践 36

2. 先行研究一覧 42